

農作業で全道最多 7人死亡 2014年度十勝管内

北海道農作業安全運動推進本部（村上光男本部長）は2014年度の道内の農作業事故発生状況をまとめた。十勝管内は全道最多で前年度比5人増の7人の死亡事故が発生、負傷事故も昨年度より29人減ったが494人と全道最多だった。

9月末から冬に集中



十勝の死亡7人は05年度と同数で、過去10年で最多。内訳は男性5人、女性2人で、60歳以上が4人と過半数を占める。時期は農作業終盤の9月末から翌冬までに集中して発生した。

9月28日に本別で女性(33)がサイロで、10月には浦幌で男性(62)がビートタッパーに巻き込まれ、11月は帯広で男性(17)がトレーラーにひかれ、池田では男性(63)がマニアスプレッタに巻き込まれて死亡。12月には足寄で男性(66)が転落、幕別で女性(74)が屋根崩落で、翌1月には本別で男性(59)がトラックの荷台にはさまれて亡くなっている。

負傷事故は男性330人、女性164人。年齢別では60歳以上が男女とも最多。時期は収穫が本格化する9月が70人

で、次いで10月が63人、春作業が始まる4月が57人と多かった。

時間は午前9時～正午が135人、午後3時～同6時が134人。場所は畜舎が199人で畑の127人を上回った。作業機別ではトラクターが26人で最多だった。

全道は、死者が前年度比5人増の20人で、十勝に次いで上川4人、後志3人が多かった。負傷は同175人減の2221人で、十勝の次はオホーツク418人、釧路225人の順。十勝の事故死者数全道一はここ10年は毎年続いている。

十勝で事故が多いことについて、十勝地区農作業安全運動推進本部事務局は「畑作地帯は機械の種類も多い。機械化が進む十勝は危険も大きい。安全対策が進んで機械の事故は減ってきているが、家畜による負傷事故は飼養頭数増加などで増えている」とする。

その上で、「油圧にはつかい棒をする、トラクターで詰まっているものを取りときはエンジンを止めるなど、基本を守ることが大切」と呼び掛けている。

今年の十勝管内はこれまでに2人が死亡。7月に清水で女性(84)が畑で熱中症で、9月に土幌で男性(37)がスズメバチに刺されて亡くなっている。

十勝農業 進む大規模化 1経営体当たり42ヘクタールに

2016年1月15日

十勝の大規模農業を示す数値として使われてきた、平均耕地面積の「38ヘクタール」が、2015年農林業センサス(概数値)で「42ヘクタール」に拡大した。15年の十勝の1経営体当たり耕地面積は、前回調査の10年と比べ3.4ヘクタール増の41.72ヘクタールとなった。離農が進み経営体の数が減る中、経営面積の大規模化が進んでいることが背景にある。国は環太平洋連携協定(TPP)対策で規模拡大を促しており、今後も1経営体当たりの面積は広がる見込み。

調査は5年に1回行っており、今回は15年2月1日現在で実施した。15年の1経営体当たりの平均経営耕地面積は全道で26.51ヘクタール、全国で2.53ヘクタールだった。

離農と共同化



十勝の農業経営体の数は15年が5731経営体と10年比で570経営体の減、さらにさかのぼり05年に比べる

と1148経営体も減っている。離農や、複数の経営体が共同経営でまとまるとみられる。

15年の十勝の総農家戸数は5442戸(10年比674戸減)、このうち経営耕作面積が30アール以上で農産物販売金額が年50万円以上の販売農家数は5322戸(同656戸減)、自給的農家数は120戸(同18戸減)、土地持ち非農家数は1892戸(同4戸増)だった。

十勝の販売農家の農業就業人口は1万6130人(同2104人減)。年齢階層別では60～64歳が最多の2013人(同60人増)。平均年齢は54.3歳(同0.5歳増)、全道平均の57.1歳より若かった。